

令和2年 鳥羽市学校通学区審議会会議録

第1回

場 所 鳥羽市教育委員会 会議室

期 日 令和2年7月4日（土）

開 会 午後2時

閉 会 午後4時

出席委員	委 員 荻 原 彰 委 員 中 村 幸 照 委 員 東 和 彦 委 員 前 田 陽一郎 委 員 中 村 晴 恵 委 員 勢 力 昌 宏 委 員 家 田 晶 代
欠席委員	委 員 宮 崎 太 資

教育委員会（説明員及び書記）	教 育 長 小 竹 篤 総 務 課 長 山 本 勝 利 学校教育課長 岩 本 和 也 （書 記） 総務課庶務係長 天 田 雄 也
----------------	--

1. 教育長挨拶

(教育長)

天気の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。今年は鳥羽市の色々な計画の改定時期になっています。鳥羽市総合計画の改定作業が始まっています。鳥羽市教育振興基本計画も今年度が区切りで来年度から新しくすることになっています。

前回の鳥羽市小中学校統合計画は、平成 27 年に策定されていますが、この計画には期限に関しての記載はありませんでした。その統合計画に基づき進めさせていただいていましたが、策定当初の予想以上に子どもの数が減少したり、様々な事情により区域外修学をされる方が増えてきたりして、少し事情が変わってきました。計画にはなかった鏡浦小学校が、令和 3 年 4 月から安楽島小学校へ統合されることになりました。また、長岡中学校の統合については地域からご要望をいただきました。計画上は令和 9 年に加茂中学校へ統合となっていたましたが、令和 4 年に加茂中学校ではなく、鳥羽東中学校へ統合したいというお申し出でした。長岡中学校に関しましては、その方向で検討させていただきたいと考えています。

平成 27 年に策定した統合計画と現状や教育事情を鑑みて、今年度に新しい統合計画を策定し、それを指針に今後の鳥羽市内の小中学校の運営を考えていきたいと思っています。特に、今回は中学校の統合が大きなテーマになってくると思います。今までも各地区に説明に伺わせていただいていたましたが、この審議会にも鳥羽東中学校、加茂中学校、長岡中学校、答志中学校の校区代表の方に委員さんとして入っていただくことになりました。皆様には地元を代表する形で荷が重いという面もあるかもしれませんが、地元の方とも情報交換をしていただきながら、この場で色々ご意見をお伺い出来たらと思っています。

基本的な進め方としましては、全くの白紙の状態では議論を進めることが難しいため、この場でしっかり審議していただくことを前提に、教育委員会から方向性の案を出させていただこうと思います。まず、小学校は、各地域のコミュニティの中心として残していきたいという思いがあります。中学校につきましては、可能な限り適正規模化を図っていきたいと考えています。このことにつきましては、鳥羽市には離島やへき地があり、学校の規模が違う中で簡単に一括りにできない面もあると思いますので、そういった点につきましても、みなさんにしっかりご議論していただきながら進めていきたいと思っています。

前回の計画策定後、たくさんのご意見をいただきました。地域の方や保護者に十分に説明がされていないのではということでした。今回の計画作成にあたり、この審議会を 5 回計画させていただいていますが、審議会の内容をホームページ等で公開させていただき、概略ができた時点でパブリックコメントを実施する予定です。また、各地区をお訪ねし、説明等もさせていただきたいと考えています。

統合計画の策定については、最終的には鳥羽市の教育委員会で進めさせていただきますが、国や県が出している指針がございます。国の指針は平成 27 年に出されたものです。ここには、適正規模・適正配置は小中学校共に 12 学級以上 18 学級以下が標準と記載されています。でも、特別な事情がある場合はこの限りではないと、柔軟な運用ができるようになっています。法令上はこのようになっています。また、望ましい学級の考え方として、小学校は 1 学年 2 学級以上、1 校 12 学級以上が望ましいという記載もあります。中学校は少なくとも 9 学級以上を設置するこ

とが望ましいと書かれています。法令より少し枠を広げて柔軟な対応ができるよう書かれている状況があります。また、通学距離の指針としましては、小学校では概ね4 km 以内、中学校では概ね6 km 以内という基準があります。今の鳥羽市内の校区では、鳥羽東中学校は船を使う生徒がいますので、6 km 以上になっているケースがあります。また、鏡浦小学校の一部が4 km 以上離れた所から通学しているケースがあります。鳥羽小学校も電車通学をしている児童が4 km 以上になっています。通学の時間に関しましては、概ね1 時間以内を目安として書かれています。1 学級あたりの人数については、三重県が平成 20 年に出している指針に記載があります。そこには、小中学校共に1 学級当たりの最少人数は、20 人ないし25 人とするという基準が書かれています。

国と県の指針としましては、このような状況であります。鳥羽市教育委員会として地域性等も考慮し、みなさんのご意見をしっかりお伺いしながら、鳥羽市独自の基準を作っていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 委員の委嘱について

(総務課長)

鳥羽市学校通学区審議会条例第1 条記載のとおり、本市の小中学校通学区の適正化に関し調査審議するため、この審議会を置くことになっています。また、第2 条では、所掌事項として、審議会は鳥羽市教育委員会の諮問に応じ、必要な事項を審議し、答申することになっています。この後、教育委員会より諮問させていただきます。今回は5 回の審議をお願いする予定ですが、その中で審議をしていただいて、答申をいただきます。また、条例第3 条に基づき8 名の方に委員をお願いしています。第4 条には、審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によって定めると記載されていますので、委嘱させていただいた後、会長・副会長を選出させていただきたいと思っています。

(教育長)

委嘱状交付

(委員)

委員自己紹介

3. 会長・副会長の選出について

(総務課長)

審議会条例4 条に基づき、会長・副会長の選出を行いたいと思います。委員の互選となっていますのがいかがでしょうか。なければ事務局案として、会長を荻原委員に、副会長を中村幸照委員にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(委員)

異議なし

(総務課長)

それでは、荻原委員と中村幸照委員に会長・副会長をお願いします。一言ずつ挨拶をお願いします。

(会長)

私は、鳥羽市には海洋教育の関係で以前より少し関わらせていただいていたいました。私は大きく分けると環境教育の研究をしていますが、その中で、大阪の小さな自治体をお訪ねして教育委員会にインタビューしたことがあります。その学校教育課長さんがおっしゃるには、その地域で一生懸命教育して、いい高校・大学に子ども達を送りだしてきたけど、気付けばその子ども達はみんな東京や大阪の都市部へ出て行ってしまって、故郷には年老いた両親だけが残されている状況だということでした。今後、まちが成り立っていくためにも、教育の方針を変えたということをお願いしました。私は、そのことがきっかけとなり人口減少社会における教育のあり方について考え始めています。そういった経緯もあり、今回お声かけいただいたと思っています。よろしくお願いします。

(副会長)

自治会連合会の会長を務めさせていただいていますが、最近は地域共生社会という言葉をよく聞きます。これは、国も進めようとしています。今後、人口減少になってくるということを考えていく必要がある時代になってきたと思っています。その中で、子ども達にとって、より良い環境を作っていくことが地域共生社会においても必要だと考えています。よろしくお願いします。

教育委員会より諮問

(教育長)

諮問書読み上げ

4. 議題

(総務課長)

審議会条例に基づきまして、ここからの議事進行を会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(1)通学区についての諮問事項の説明

(会長)

事務局より説明をお願いします。

(総務課長)

資料に基づき説明

(会長)

ただいまの説明の中で、資料の中身も含めてご質問等があればお願いします。

(委員)

スケジュール資料につきまして、地域の説明会は随時とありますが、このことについての考え方について教えてください。

(総務課長)

審議会の開催と平行して、各学校の説明会や懇談会を進めさせていただきたいと考えています。地域やPTAから要望がございましたら、随時伺いして進めていきたいと思っています。

(教育長)

前回の統合計画を基に地域とのお話をさせていただいていましたが、今年度に入ってからコロナの影響により地域との話し合いができなくなっています。先日の定例教育委員会の際にも協議し、前回の統合計画は、一旦凍結することになりました。この件に関しましては、まだ地域へご説明できていませんので、新しい統合計画を作る中で、各地区にお伺いし、随時説明させていただきたいと考えています。

(2)通学区についての審議

【学校と地域とのつながりについて】

(委員)

答志中学校の統合の話は、今から地域とのやりとりを密にする必要があると思います。答志には色々な団体や会がありますが、離島留学を進めて人を増やそうと努力している実行委員会もあります。答志の町民の考え方にも色々あると思います。先日、統合に関してのアンケートが実施されましたが、結果としては全員が反対ではありませんでした。でも、やはり地元の学校に通わせてあげたいという人は多いです。私も、中学生は人としての芯になるものが出来上がってくる時期だと思うので、その時期に地元の中学校に通わせてあげたいと思います。小学生にとっても、中学生の姿を見て、頼りながら一緒に活動して育つことが大切だと思っています。高校になると伊勢等に通うことになりますが、答志の子の本来の部分を持ったままの答志の子を育てていかないといけないと考えています。

統合すると友達がたくさんできる等のメリットもあると思いますが、それに伴うデメリットもあると思います。答志としては、なかなか賛成の意見は出てこないではないかと考えています。生徒が1人か2人になって、子どもが可哀そうという時期になったら、PTAや町民から声が上がってくると思います。でも、今の状況では、まだ反発がかなり多いと思います。答志中学校では、学校独自の取り組みとして、ワカメの刈り取り作業等、地域の人と触れ合う機会が多いので、そういった授業も大切だと思っています。

(委員)

私は、去年、統合の話が進んでいる長岡中学校の校長をしていました。長岡教育の明日を考え

る委員会という会が地域にできて、私は校長として横で見えていました。

長岡中学校は学校の人数はすごく少ないのですが、地域と非常に密着してしまっていて、町内会長をはじめ、地域との触れ合いが多いです。文化ボランティア部という部活があり、観光ボランティア等も行っています。地域の人だけではなく、地域が産業として力を入れている観光のお客さんとも交流させてもらっています。石神さんマラソンでは、文化ボランティア部だけではなく学校全体でボランティアを募り、ほぼ全校体制で協力させてもらっています。

生徒数が少ないので、様々な意見に触れる機会は少なくなりますが、地域と非常によくつながっているのも、そういった面ではいいと考えていました。長岡教育の明日を考える委員会の話を横で聞いていた時は、令和4年の統合ではなく、もう少し後でもいいのではと考えていました。長岡中学校の良さを汲んで統合できればいいのですが、簡単にはできない部分もあると思いますので、現場で見ていた者としては、非常にもったいないという思いがあります。

長岡中学校に関しては決まった事なので、特に何もありませんが、そういった思いがある中で今後何ができるか考えているところです。

学校も人数に合わせた小さい校舎ですので、逆にそれがコンパクトで、どこで何があってもみんながすぐに動けましたし、子どもの事をみんなが全部分かっていました。人数も規模も地域とのつながりも、いい感じで動いていたと思っているので、もったいないと思っていました。

小学校の時からクラス替えもなく、同じメンバーでずっと育ってきた環境のため、刺激がないということとも言えると思います。人間関係がうまくいかない時もあり、3クラス程度あれば、その中で小さなコミュニティや人間関係等が学べると思います。統合にはそういったメリットはあると思います。ただ、日本では、最近、親戚付き合いも失われつつある状況です。答志にもあると思いますが、長岡地区にもそういったコミュニティがあり、親戚がたくさん集まる風習が残っています。同級生との触れ合いの数は少ないのですが、世代を超えた繋がりが非常に濃い地域です。

鳥羽東中学校と統合になり、今まで知らなかった風習等を知ること、鳥羽東中学校のプラスになるとは思います。どちらがいいのか、自分の中では結論が出ていないところです。

(会長)

地域とのつながりや利点の部分は、長岡地区の人達も感じ取られていたと思いますが、それでも統合することになった理由は何ですか。

(委員)

現在は、長岡地区も少ない人数の中で、全員が長岡中学校に入学するわけではありません。何人かは他の中学校に入学します。最近、その人数が増えてきました。他の中学校でスポーツをしたい等の理由があります。子どもが他の中学校でやりたいことがあるなら、親としては応援したいと考えます。何がいいのかは分かりません。やはり、みなさんは、出て行かれる子ども達を見ていて、統合は早い方がいいと令和4年になったと思います。

(会長)

他の中学校に通う場合、少し大きい単位での部活動がしたい等、子どもの希望があるということですか。

(委員)

他の中学校に行かれるお子さんに関しては、そういった希望があると思います。私の子どもは長岡中学校を選んでいきますので、少ないなりのメリットを感じています。でも、統合が悪いとは思っていません。子ども達にとって、もっと大勢の人と触れ合って色々なことを経験することはいいことだと思います。少ない人数で、深く分かりあって育っている部分もありますが、競争心は低いと思います。長岡中学校では、野球もレギュラーになれますし、陸上の選手にも選ばれます。そういったメリットは感じてきましたが、他の人と競い合って成長する機会は少ないと思います。メリット・デメリットはありますが、私は、どちらも悪いとは思っていません。

現在は、少し前に比べて、子ども達を取り巻く環境が全く違ってきています。子ども達だけで問題解決をすることが少なくなっている等、時代と共に変化してきたと思います。

(委員)

統合によるメリットはたくさんあると思います。大人数の中で競争があり、そこから成長していくこともあります。部活動の選択肢も増えます。人間関係においても、小さい単位で固定化されることなく、様々な人間関係を築き広がっていくメリットがあると思います。

心配な点としては、地域とかけ離れていくことです。学校は地域にすぐく助けられている部分があります。学校の中で学習指導要領に則った指導を進めていくことはできますが、その地域のニーズに合った特色ある教育を進めていくことは難しいと思います。

地域の特色は、わずか2～3km位しか離れていないのに、全く違います。例えば、野球部のチームの雰囲気も鳥羽市内それぞれ驚くほど違います。

(委員)

地域にとっては、中学校の統合により地域独自の祭りや行事が今後どうなっていくのかという心配があります。行事に参加することで子ども達が成長してきた部分もあると思います。私達の年代では、そういったことで繋がりを作っていった部分も多分にあったと思います。

長岡中学校の令和4年の統合後に、長岡地区の中学生が地域とどう関わっていくのか、今まで長岡中学校として関わっていただいていた部分に、鳥羽東中学校として関わっていただけるのか、長岡地区の子どもだけ行事に参加してくれるのか等心配しています。

他の統合した学校の地域行事について、教育委員会で把握されている部分があれば教えてください。

(教育長)

最近、地域行事が土日に行われることが多くなりましたので、直接学校を休んで参加することとはなくなっています。以前は、菅島のしろんご祭りが曜日に関係なく7月11日に開催されて

いました。その時は、菅島町内会から鳥羽東中学校に依頼が来ていて、菅島地区の生徒は公欠扱いで祭りに参加していました。現在は土曜日に変更されていますので、この休みは実施していません。中学生はある一定の地域とのつながりは作っていきたいと考えています。

今後、長岡中学校は 10 人規模になっていきます。10 人で祭りの伝統を担うのはかなり大変なことになると思います。鳥羽東中学校に来た長岡地区の子どもが、他の地区の友達と一緒に連れて地域行事に参加できれば、長岡地区の子は 10 人しかいなくても、中学生が 20 人 30 人参加できるということは、十分に考えられることだと思います。

海洋教育も今後進めていく予定です。各地区で行うのではなく、市全体のカリキュラムの中で進めていきますので、今まで限られた地区の子だけが関わっていた部分を、決められた学年の子が全員関われるような進め方が望ましいと考えています。

小学校につきましては、児童減少ということもありまして、PTA 活動の負担が増えている現状があります。このため PTA 事業の縮小などを行っています。今後、2 年をかけて鳥羽市内の小学校は全てコミュニティスクール化を図る予定です。地域で小学校を運営していくような形を考えています。そして、小学校はもっと地域と深い関係を構築しながら運営していくように考えています。

(委員)

色々と心配事がありますが、今後、鳥羽市は急速に人口減少が進むと思います。10 年後の年代人口が減っている中で、その時代に合ったように対応していくのがいいと思います。地域の祭りが縮小され、存続できないことがあるかもしれません。町内会としては、学校統合をきっかけにまちづくりの考え方も時代に合わせて考える必要があると思っています。

特に具体的なビジョン等はありませんが、最近は自分の意見を言う場が少ないと考えていますので、そういった場を作りながら、まち全体として地域共生社会を作っていけたらと考えています。

(教育長)

小学校の運動会は、町民運動会と合同開催しているところがあります。そういった地区にかんしましては、部活動に参加せず、地域の運動会に行くことを勧めています。実際に菅島では、鳥羽東中学校に通う他の地区の友達も誘って、一緒に参加していると聞きました。

学校の授業と行事の兼ね合いが難しい場合もあるとは思いますが、ふるさとデイのような形で、年に 1 回は地域の行事に参加することを勧めたいと考えています。これは、自分の地域でも他の地域への参加でも構いません。特に新興住宅地に住む子供は、自分の地域の行事がない場合もありますので、そういった子は、長岡や離島地区等の行事に参加できるシステムを作ればと考えています。

(委員)

昭和 54 年に行われた、鳥羽東中学校の統合の際には、先を見越して早い時期に大きく統合しました。それはそれで良かったと思っています。でも、地域とのつながりのことはあまり考えら

れていなかったのではと思います。あれから 40 年経ちますが、現在もボツンと丘の上にあるような印象を受けます。地域とのつながりが非常に弱いと思います。今後の統合を機に地域との関係を作っていくことが課題だと考えています。統合したことをプラスにできたらいいと思います。東中の子どもは相差のことをほとんど知らない。相差の子どもが地域のことを説明したりして、地域とのつながりが強い子どもと一緒に学び、総合的な学習の時間等で地域をしっかりと知る時間を取り、ふるさと学習に繋げていければ、統合したことがメリットになると思います。

【学校の体制について】

（会長）

鳥羽東中学校には、離島から通っている生徒がいますが、船が欠航になった場合等の授業はどのようにされていますか。

（委員）

途中から登校するような場合は、登校時間や授業開始時間を定期船の時間に合わせています。

（教育長）

今後、一人 1 台ずつタブレットが配置される予定です。そうなれば、例えば、鳥羽東中学校で授業を行っているけど、学校にいけない離島地区の生徒がいる場合には、そのタブレットを使用して中継しながら、一緒に授業を受けることも考えられると思います。

（会長）

中学校の生徒数が減少すると 9 教科の先生を揃えられないということですが、1 学級規模だとそれはかなり顕著になりますか。

（教育長）

答志中学校には、体育の先生はいますが、音楽、家庭科、技術、美術につきましては、非常勤の先生や免許外で授業をしています。教員の配置の関係で、たまに免許を持っている先生がいる場合もあります。鳥羽東中学校でも家庭科の免許を持っている先生は配置できていません。

（会長）

免許外で授業を行うことは、かなり大変ですか。

（委員）

そうですね。今までやってこなかったことを教えるのは難しいです。美術等は、自分の知り合いで陶芸家を頼って授業をしている先生もいますが、1 年間ずっとは無理ですから、毎回の授業で苦しんでいる状況です。免許を持って専門性を持った先生が授業をされると子ども達がずいぶん違います。

(教育長)

専門性を持った先生に教わることで、すごく伸びる生徒もいると思います。そのチャンスが失われることで開花せずに終わっていく可能性もあると思います。鳥羽東中学校の美術部の子は、先生の指導もあり、その後、そういった関係の仕事に就けたそうです。

(委員)

音楽や美術の先生が非常勤等で、その授業の時だけ来てくれて授業をして帰られる場合、子ども達が後で聞きたいことが出てきた時に、先生がいない場合があります。また、体育祭等の行事の際、曜日が合えば一緒にお手伝いをしてもらえますが、曜日が合わなければ来てくれないので、先生の人数が少なくなり、学校運営上でも支障が出てきます。

【統合後のクラブ活動について】

(委員)

部活動について、鳥羽東中学校の野球部の人数が足りないと聞きました。全校生徒数は多いのに、野球部員数が少ないことに驚いています。答志中学校は7人です。チームとしては足りていません。合同チームを作れば、試合に出場はできますが、答志中学校は出ていかないといけないので、一緒に練習できる機会はそれほど取れないと思います。

(教育長)

合同チームを市内で作ることはできますが、学校の規模が小さくなれば、先生の数も少なくなるので、顧問の先生が配置できなくなり、それぞれの学校にそれだけクラブの数を置いておけなくなると思います。鳥羽東中学校でも入部しないクラブが出てきたら、無くしていく方向で検討しています。そうなってくると、クラブも絞られていき、選択肢が少なくなってきます。

(委員)

現在、長岡中学校で女の子が入れる部活は、バドミントン部と文化部しかありません。男の子は野球部と文化部です。令和3年度に入学する生徒は、2年生になった時に鳥羽東中学校に統合される予定ですが、その時、例えば、バドミントンをしていた子が、それ以外の部活に入りたいとなった場合は、どのように進められる予定ですか。

(教育長)

鏡浦中学校が統合した時は、統合計画がありませんでした。野球をしていた子が3年生になって鳥羽東中学校に行った時に、野球部以外のクラブを選ぶことも可能でした。鏡浦中学校にバレー部はありませんでしたが、3年生からバレー部に入ってレギュラーになっていた子もいました。

(委員)

統合が決まっている中で、長岡中学校にない部活をしたいと思っていても、選択肢が限られていて、途中から、例えばバスケット部に入っても、長岡中学校で過ごした時間は、元々鳥羽東中学校で部活をしていた子と比べて差が出てくると思います。特にチームスポーツでは難しい面もあると思います。途中で統合する子ども達には、そういった点もご配慮いただきたいと思います。

(委員)

学校を統合する際には、事前にお互いの学校で交流行事が行われます。その時に、長岡中学校の子は鳥羽東中学校の部活動に参加しても良いというようなことはできると思います。

(委員)

そういったことを希望されるご家庭は多いと思います。男の子の中には、運動をしたいけど、野球部は嫌という子もいます。走ることが好きで陸上部に入りたいという子もいます。そういう子どもは、もしかしたら来年度の入学時に、先に鳥羽東中学校に行くかもしれません。今の6年生の中の何人かは統合を見据えて、入学時から区域外修学で鳥羽東中学校を選ぶ子もいると思います。残っている長岡中学校の子ども達が、統合後もスムーズにやっていけるような環境を整えていただけたら嬉しいです。

(委員)

鳥羽東中学校で部活動を指導する際には、定期船やスクールバスで通っている子がいるため、バスや船の時間に配慮しながらやっています。そのため、土日の練習時間が短くなる場合もあります。練習試合に他の所に行った際にも、公共交通機関の制約を受ける場合もあります。今後、統合が進み、校区が広がった場合は、さらにそういった制約を受け、部活動の時間が短くなるのが想定されます。

【通学について】

(委員)

校区が広がった場合の通学に関して、防災や安全の観点から不安があります。先日も夕方急に大雨になった際、スクールバスの手配や、離島の子のマリンターミナルへの移動等の対応がありました。今後、校区が広がった際の緊急時の対応について不安があります。

(教育長)

統合して校区が広がった場合の対応については、私もその難しさを経験してきました。スクールバスの配置ができたことによって、マリンターミナルへの移動等も含めて、緊急時に対応しやすくなりました。以前より改善されたと思います。統合すると通学距離が長くなる生徒も出てきますので、通学途中での心配は出てくると思います。地域などの協力も得ながら進めていきたいと考えています。鳥羽東中学校は、非常に安全な場所にありますので、津波等の緊急時にも対

応できるようになっていて安心です。

(会長)

通常の通学時で、支援が必要な生徒についての対応策はありますか。また、統合計画を進めた場合、通学時間は国のガイドラインの範囲内に収まりますか。

(教育長)

支援が必要な生徒のために、ファミリーサポートという制度があります。その制度の中で個別に送迎などの対応をしています。以前も離島の支援学級の子どもが、その制度を使って通学していました。

神島から鳥羽東中学校に通おうとすると、1時間以上かかりますが、他の地区は1時間以内で通える範囲だと考えています。

(委員)

現在、スクールバスは下校時には2便出ています。早く帰る時には3回出すときもあります。鳥羽東中学校のスクールバスは1台のため、一度送って戻ってきからの運行となっています。今後、路線に関して教育委員会はどのようにお考えですか。

(総務課長)

今のところは、長岡から県道を通るルートで考えています。パールロードを通るルートは、時間的にはそれほど変わりないと思いますが、地元の人達が通り慣れている道を想定しています。

【教育の方向性について】

(会長)

今後の鳥羽の教育の方向性について、何かありますか。

(教育長)

昭和45年に鳥羽東中学校へ統合が行われた際に、当時の教育長は切磋琢磨ということをおっしゃっていました。人数の多い中で競い合わせて、一人一人が伸びる、そんな教育を目指したいとお話しされていました。今後、中学校を適正規模化したいと考えているコンセプトは、多様性を一つの柱にしたいと考えています。限られた人数の中で形成される人間関係は発展が少ないという点があります。また、最近ではLGBT等も世の中で議論されていますが、多様な人がいて多様な出会いがあり、多様な選択ができる中学校を目指したいと考えています。それを土台で支えるのが小学校の教育だと考えています。小学校できちんと学力もつけて、地域との密着もしっかりつけていきたいと考えています。今、小学校で盛んにふるさと学習も進めていることもあり、しっかりと地元根を生やし、中学校に行ったらたくさんの人たちと多様な学習ができるような環境を整えたいと考えています。その上で、改めて地元の良さを分かる子どもになって、大学等で外の

地域に出るかもしれませんが、やがて、その根っこへ戻ってきたいというような子どもを育てていきたいと考えています。

具体的な教育内容につきましては、今、鳥羽で進めていますのは、グローバル社会に対応する外国語教育があります。それと、先程も申しました郷土教育、この二つを柱にしたいと考えています。今回、国から GIGA スクール構想が出され、ICT 教育も導入されようとしています。これは、今後、離島もへき地もある鳥羽で ICT というツールを使って学びを広げることができると思っていますので、そこにも力を入れていきたいと考えています。

(会長)

多様性が必要だということは、私も納得できることがあります。自分という人間を知るためには、一人ではよく分からなくても、色々な人との関係性の中で自己は形成されていくと思います。そういった意味では、様々な人と触れ合い、同級生の友達がたくさんいるという関係性は確かに必要な気がします。

(教育長)

これだけ社会が不公平になってきますと、色々な考え方や生き方を受け入れるという意味での多様性というものも非常に大切だと思います。様々なことを受け入れられないとこれからの社会で生きづらくなると思いますので、どんな世の中になっても、自分でしっかりと自分の生き方を見つけられるということも大事になってくると思います。

(委員)

私は、保育所から中学校を卒業するまでずっと同じメンバーと育ってきました。そのため、先程の多様性が大切というお話しは分かりますが、私自身の経験を踏まえるとそれ程重要だとは思いません。少ない人数で育ってきたからこそ、同級生の密着度はすごいです。高校に行った時にも特に臆することもなく、新しい発見があり、それなりに自分を発揮して過ごしてきました。私達の頃は確かに 30 人位いて、今は 10 人以下になっていると状況も違うかもしれませんが、ずっと同じメンバーで育つことが悪いということは、絶対にないと思います。小さくても一人つきりではありません。小さい学校の良さとして、先生がそれぞれをよく見てくれるということがあると思います。クラス替えがあり、色んな友達と出会えることのメリットもあるとは思いますが、自分達が育ってきた環境として、そこは否定したくないと思います。中学校は人としての芯ができる期間だと思います。その芯を持って、答志人として高校以降で活かせばいいと思います。

(教育長)

否定しているつもりはありません。選択肢がたくさんあった方が全体としては良いのではと考えています。

５．その他

（教育長）

次回以降の議論を進める上で、教育委員会よりたたき台のような案をお示しさせていただいた方が議論しやすいかと思いますがいかがでしょうか。

（委員）

何かあった方がそれをベースに考えることができるのでありがたいです。可能であれば、それを事前にいただいて、少し考える時間をいただけるとありがたいです。

（総務課長）

次回の審議会からは事前に資料をお渡しさせていただきます。

（教育長）

では、次回までに教育委員会の案をお示しさせていただきます。ただ、誤解しないでいただきたいのは、それで進めますという物ではありません。審議会の性格上ここでしっかり話し合ってくださいのためにも案を出させていただきたいと思います。ご理解いただけるとありがたいです。

（会長）

たたき台の案と、この案によってどういった課題を解決しようとしているのかという点も付け加えていただけるとありがたいです。

終了 １６：００